

環境影響評価審査会神鋼加古川発電所部会議事録

- 1 日時：平成 20 年 8 月 21 日（木）10:00～12:00
- 2 場所：パレス神戸 大会議室
- 3 議題：神鋼加古川発電所ボイラー更新に係る環境影響評価準備書の審査について
- 4 出席委員：山中部会長、北村委員、田中みさ子委員、中野委員、山口委員、別府委員
- 5 兵庫県：環境管理局長
環境影響評価室長、審査係長他係員 2 名
環境整備課、大気課、水質課、東播磨県民局
- 6 事業者：株式会社神戸製鋼所加古川製鉄所
- 7 関係市：加古川市
- 8 配布資料
 - ・会議次第
 - ・出席者名簿
 - ・資料 1) 環境影響評価準備書の審査について（諮問）
 - ・資料 2) 神鋼加古川発電所ボイラー更新に係る自主的な環境影響評価について（依頼）
 - ・資料 3) 神鋼加古川発電所ボイラー更新に係る環境影響評価準備書
 - ・資料 4) 環境影響評価のしるしフロー
 - ・資料 5) 神鋼加古川発電所ボイラー更新計画の概要
 - ・資料 6) 神鋼加古川発電所ボイラー更新に係る環境影響評価準備書の縦覧等の状況（中間報告）
- 9 議事概要

事業者が準備書により環境の現況、予測及び評価の結果（大気質、騒音、振動及び悪臭）について説明。

〔質疑〕

（委員）総会でも言ったように、大気質において、現状環境濃度と寄与濃度とでは有効数字の桁数が異なるので、これらと合算した将来環境濃度を表記することはおかしい。

（委員）事業の目的は、設備の維持管理の不備等により事故が多発したことから、抜本的な対策として 1～6 号ボイラーを更新するとなっている。住民からすると事故が二度と起きないこと、そして適切な維持管理が行われることが最大の関心となるので、目的の中に、安全性や地球温暖化対策に努めるなどのキーワードを書き加えるべきである。また、P1-7 の図中では、2、4 号ボイラーの廃止とあるが、維持管理上の問題が 2、4 号ボイラーにあったということか。

（事業者）維持管理体制の不備により、水質が悪くなり、1～6 号すべてのボイラーの水管が悪くなった。現在は管を取替え、維持管理体制を整えているが、長期的な観点から 1～6 号ボイラーのすべてをやりかえることが妥当であると判断した。少しでもいいものにして地域の皆さんに安心いただく趣旨である。した

がって、2, 4号ボイラーも稼働可能であるけれど、廃止するというのである。また、キーワードについてもどこかに表記する。

(委員) 低周波騒音は問題ないのか。また、振動について、基礎を強化することにより振動の低減を図るとあるが、どういうふうに基礎強化するのか。大気質について、現状環境濃度と将来環境濃度との有効数字の桁数がオーダー的に異なるのはなぜか。

(事業者) 現在のところ、低周波についての苦情はない。基礎強化について、ボイラー解体後の基礎の上にもコンクリートを打ち強化する予定である。

(委員) 基礎について杭は打つのか。また、貴社の周辺機器に影響はないか。

(事業者) ボイラー容量を大きくすることで必要な部分について、杭を打つ。

(委員) 貴社内の機器に影響があるから、基礎強化を行うのであって環境保全対策ではないのではないのか。

(事務局) 東播磨地域の現状環境濃度が、神鋼加古川製鉄所も含め、自動車の影響や他の大規模工場の影響など地域全体の集積結果としてある中で、今回のボイラー更新による寄与濃度のシミュレーションした結果を比較対象として表中に並べて記載されていることがオーダー的に異なることとなったのではないかと思う。また、先ほどの委員からの指摘は重要であり、更新する目的が地域住民の安全・安心の確保のための更新であると総会資料の資料5にはあるが、準備書には載っていない。

(委員) 事業の目的で、施設の老朽化が原因であれば対策として設備更新でよいが、維持管理が原因であれば、いくら更新しても同じ事故が起こりうるので、事業の目的のところに、具体的な維持管理の仕方を記入するなど工夫してほしい。

(委員) 2, 4号ボイラーが廃止されるが、その跡地はどうなるのか。また、道路交通騒音について、周辺地域に存在する学校等には考慮しないのか。

(事業者) 2, 4号ボイラーの跡地は、今のところ利用の計画はない。道路交通騒音について、全体として、いかに工事車両の平準化を図るかについて工夫したい。また、通勤車を減らして、バスを利用する取組みを実施している。

(委員) 硫黄酸化物の排出量について、届出値と実績値が大きく異なるのはなぜか。

(事業者) 補助燃料として重油を使った場合に多く硫黄酸化物がでるので、その値を届出値としている。まず、絶対守る値を届出値とし、実際はこの下に管理値を設け、さらに管理値の下で運転していく。

事業者が準備書により環境の現況、予測及び評価の結果（水環境、廃棄物、及び地球温暖化）と環境影響の総合的な評価、そして資料6の神鋼加古川発電所ボイラー更新に係る環境影響評価準備書の縦覧等の状況（中間報告）について説明。

(委員) 温排水について、深さ方向の拡散はどう評価するのか。また、資料6の別紙4にある二酸化炭素と一酸化二窒素の排出量などもっとデータを公開すべきであるという意見に対してどう対応するつもりなのか。

- (事業者) 温排水は周辺の海域より温度が高く、浮き上がってくるので、地形に応じて深さを切り、それを平面にした結果を準備書の P2.2.5-30 に載せている。また、データの公開については、社内で議論しているところである。
- (委員) がれき類とはどういうもので、どう処分されるのか。
- (事業者) がれき類の一つはコンクリートがらであり、これは路盤材へ有効利用する。
- (委員) ボイラーにアスベストは使われているのか。
- (事業者) 調査を進めているところであるが、使っている部分もある。今後、解体するにあたり、詳細について調査・検討する。
- (委員) 2、4号ボイラーの跡地を緑化するなど、地球温暖化対策に向けた検討をしてほしい。
- (事業者) 2、4号ボイラーの跡地の利用については検討中である。しかし、緑化についてはそのみならず、工場全体で実施していきたい。
- (事務局) 供用後の廃棄物を準備書に載せていないのはなぜか。また、総会では、排水の汚濁負荷量は増えるという発言があったと思うが、準備書に載せていないのは理由があるのか。CO2削減量の13.3万tについて、この削減量は、外から買う電力による排出量が減るからなのか、もしくは個別ごとに削減量を積み上げていった結果なのか。
- (事業者) 供用後の廃棄物に石炭灰がある。6号ボイラーについて、同規模のものを置き換え、現状の発生量と変わらないので、予測評価から外した。現状、石炭灰はセメントに利用しているので埋立処分ではない。また、排出する水質で議論するので汚濁負荷量は載せていない。そして、CO2の削減量については、燃料転換をすることで、2.7万tのCO2が削減される。また、ガスタービンコンバインドサイクル発電設備導入で、購入電力量が年間約380MWh減り、その電力量に関西電力の係数(0.282)を掛け合わせて10.6万tの削減となる。合わせて13.3万tの削減となる。

以上